

## 饅頭

寛永のころ中島淨雲と云人、京都より來り、はじめて求肥館を弘む、江戸にて求肥館の根元とす、此故に今も求肥屋とよぶ。○中略

求肥館無一類

横山町三丁め 寶來や伊織

〔下學集中飲食。〕 饅頭マントウ

〔饅頭屋本節用集未食物。〕 饅頭マントウ

〔大上膳御名之事〕女房ことは

一まんちう まん

〔倭訓菜末編二十四〕まんちう 饅頭の音なり、頭をちうとよむは、火頭をこちう、塔頭をたつちうといふが如し、ちう反づなり、職人歌合に、砂糖饅頭さいまんちうと見えたる、さいは菜なるべし、唐饅頭あり、賀饅頭あり、又饅頭皮兒とも見えたり、米まんちうあり、葛まんちうあり、

〔隨意錄六〕饅頭名義未審略 中 我方呼頭爲柔頭未有柔音蓋吳音之訛耳、

〔梅園日記二〕饅頭

事物紀原に、蜀の諸葛亮が孟獲を征し、時に蠻神を祭らんとするに、蠻俗は人の頭を以て祭るならはしなりといふものありしかど、もちひすして羊と豕との肉を、麵に包みて人の頭にかたどりて祭れりとぞ、それより饅頭ははじまりけるよしをいへり、同話錄にも此説あり、七修類要には、もと蠻頭なるを饅頭と訛れりとすと、委しく萩苑日涉に記せり、按するに、此事又誠齋雜記、演義三國志、古今事物考などにも出て、誰もしれる故事なり、されども誤なり、いかにとなれば、初學記に、盧諱祭法曰、春祠用饅頭、餳餅、餠餅、牢丸、荀子四時列饌傳曰、春祠有饅頭餅以上初學記とあるを見るに、三國の時蠻神を祭らんとて、造りそめたるもの、さしつぎの晉の祭に、盧諱は晉人なり、そなへん事はあるまじくおもはる、又接に漢の劉熙が釋名に、脂術也、術炙細密之肉、和以薑椒鹽